



世界に羽ばたく，化学者に！

三好徳和 Norikazu MIYOSHI

徳島大学大学院創成科学研究科理工学専攻 教授, 化学グランプリ・オリンピック委員会 委員長



化学グランプリは，全国の中高生に化学への興味・関心を喚起し，意欲・能力を高めること，加えて世界にも通用する若い化学者を育成することを目的として，1999年より開催しており，約4000名の生徒が参加している。第一次選考を毎年7月の海の日（祝日）に，全国65以上の会場にてマークシート方式にて参加費無料で行っている。問題の内容は大学院レベルといわれているが，高校の教科書を理解していれば解けるように工夫されており，化学的読解力の試験ともいえ，導入部分は中学生でも解答可能なようにしている。さらに上位者約80名に対し，第二次選考を合宿形式にて実験の試験を行っている。総合成績上位5名に大賞を，以下金・銀・銅賞を授与している。なお，二次選考参加のための旅費と宿泊費に関しても，地域等による公平性を考え化学会の規定に基づき支給している。

加えて化学グランプリは国際化学オリンピック（IChO）代表生徒の選抜も兼ねており，最終的に4名の日本代表生徒を選抜し国際大会に派遣している。IChOは1968年に東欧3カ国（ハンガリー，旧チェコスロバキア，ポーランド）が始めた高校生の学力試験から発展した，1年に一度開催される「化学」の国際大会である。現在では約80カ国から300人以上の生徒が参加しており，上位約1割に金，約2割に銀，3割に銅メダルが授与される。日本代表生徒は2003年より正式参加しており全員が銅メダル以上を獲得している。

IChOの試験内容は，大学に進学する高校生の国際標準レベルである国際バカロレア・ディプロマプログラムを基本としている。日本でいえば，有名大学の理学部・工学部での基礎教育としての学修レベルに相当する。そこで毎年10月に選抜された約20名の生徒に大学の学部教育に使われる教科書を贈呈し，集合教育を行うとともに，実験と筆記の試験にて代表生徒を選出している。知識レベルはかなり高いが知識量のみでは代表にはなれない。STEAM教育に求められる，科学的論理性を持って俯瞰的視野をもつ地力のある生徒である必要がある。

これらの大会のことを皆さんにはぜひ知ってもらい，ご協力ご助力をお願いしたい。ただ，少しだけ気になることもある。IChOに参加した当初は，医学部に進学する生徒が見られたが，ここ十数年は，理学部・工学部・薬学部の化学系学部に進学していた。しかし，またそれが崩れ始めた。さらに，博士課程まで進学し，アカデミアを目指すも苦難の道に遭遇している。代表生徒をはじめとして，非常に優秀かつ将来有望な若人に，この事業を通じてたくさん巡り合った。世界に羽ばたき，日本の未来を変えてくれるこれらの若者たちを，受け入れられるような社会になるよう切に望む次第である。

© 2023 The Chemical Society of Japan